



LONGIN

We create in Tokyo Japan since 2011

WEB MAGAZINE Vol.



作りたいたミノーが、
 できました。

ルアーフィッシングの始まりといっても過言ではない、ミノーという存在。巻き、操り、間を掴む……ルアーを操る楽しさを教えてくれるルアー。様々なメーカーが挑む混沌としたジャンル。それがミノー。ブランド生命を賭けてロンジンが挑んだスタンダードへの挑戦。是非、ロンジンというブランドを体感してください。



NEW

HI-STANDARD

飛びと泳ぎの追求によって生み出したニューバランスミノー! ハイスタンダード 120mm 19g 1,900円+税

全14色
 全長57mm
 全長57mm



フィンキーリップを搭載することでしっかりと水を抑え牽引し立ち上がりでキレの強い泳ぎを実現。基本はローリングとウォブリングから自然に泳ぎのついたウォブローリングアクション。流れや泳ぎの変化に伴いバランスポイントを駆使した本体には、フィンキールへの水が強く当たることでスライディングアクションが生まれ、泳ぎにイレギュラーが加わりリターゲットを誘います。レンジは40～120cmを広く安定的に探るための快適性を追求した泳ぎに設定。ウェイトボールの絶妙な配置とボディ形状、フィンキールを搭載することにより可能になった。今までのこのクラスのミノーの飛びを越える「スプールからラインを引っ張っていく」のよき感覚の飛距離をぜひ体験下さい。



関東でサーフのヒラメと言えば外洋がメインフィールドとされていたが、今最もアツいのが内湾のサーフでのヒラメ釣りだ。ここでは以前より内房サーフへ足繁く通っている遠藤氏に、サーフでヒラメを狙うために重要なポイントを解説してもらった。

ヒラメ で狙う 房総サーフ

Text by 遠藤真一

外洋と内海のサーフの最大の違いは、水深や地形変化の有無。しかし、その特徴さえ掴んでしまえば多くの場所でヒラメを手にするチャンスがあるとも言える（写真は外洋のサーフ）。



サーフゲームの魅力

ここ数年で急激にアングラ人口の増えたサーフゲーム。サーフと言えば、ヒラメやマゴチに代表されるフラットフィッシュを筆頭に、房総ではヒラマサやブリなどの大型の青物、真鯛や黒鯛といった鯛類、小型回遊魚から一部エリアではタマンも釣ってきた。

勿論シーバスの回遊もあり、食べても美味しい高級魚が釣れるのだから人気が出るのも当然。釣れ出すと、ずらっとアングラが立ち並びサーフで、確実にターゲットを釣るためのマル秘メソッドや立ち回りなどを。メタルジグのグリードとヘビーシンキングペンシルのレビンヘビーを用いて、房総でヒラメを狙う私の攻略法を紹介しよう。

人気に火がついた内房のヒラメ

房総は素晴らしいポイントが多く、外房や南房総には有名な人気サーフもあるのだがムラも多い。サーファーも楽しむ場所だけに人

的プレッシャーも高くなるのが難点だ。

その点、内房はノーマークでさまざまなベイトも安定して多く存在することから、一部のアングラーの穴場的ポイントとなっていた。そして年々サイズと数が増えていき、狙って行くとほぼ釣れるほどの安定感も出て来た。

そんな内房サーフが何故人気スポットとならないのか？ 遠浅で波が立たず、のっぺりとした見た目何の変化も無いつまらないサーフ……。これが、やり込むと実に奥深いのだが、ストレスとなる位の浅さがアングラーを遠ざけて来たのだと思う。

こういった場所では、シーバスアングラーには常識のシンキングペンシルを用いてみると非常に攻略しやすい。微妙な流れの変化を捉えるシンペン、使い込むほどに手元に情報を伝えてくれるサーチル

アーになる。

抜群の飛距離、流れの変化や表層からボトムまで探れる高いサーチ力。浮きやすい特性と浮ききらない粘りを持ったレビンヘビーは、シンペンの苦手なアングラーにも充分に使える特殊なルアーとなっている。



ヒラメにはやっぱりゴールドベースが効き目抜群！ 特にゴールドレインボーは万能なので欠かせないカラーだ。

ルアーの使い分け

ヘビーシンキングペンシルのレビンヘビーとメタルジグのグリードには共通点も多い。

お互いシンキングルアーということで抜群の飛距離と浮き上がりやすい特性を持つのだが、圧倒的質量の差から沈下速度が全く違う。技術

的にはここがいちばんの差で、使用方法も変わってくる。

見た目のサイズ感の使い分けも重要だ。ベイトのサイズやヒラメの活性などに合わせてアプローチすることがチョイスの鍵となる。私なりの使い分けは下にまとめたので読んで欲しい。



同じサーフでもポイント毎にカラーチェンジとレンジの狙い分けが重要。状況に合わせて答えを探し出そう！

【レピンヘビー】

レピンヘビーでヒラメを狙ううえで大事なのは水深と波の高さ。レピンヘビーが威力を発揮するのは遠浅のサーフや岩礁の上のようなミノーを通せない場所、そして凪だ。あまりに波が高いエリアはレンジコントロールが難しく、波にラインを食われ浮かされてしまい、コントロールが難しくなってしまう。

凪の日の遠浅サーフでは飛距離とレンジの融通性からレピンヘビー一本で、広範囲を3Dに探っていくことが多い。シンペンの類は流れを感知しやすく、使い込む程にアングラーの意のままになるのもいいところ。タダ巻きのスปีドの変化や、ストップによるフォールでもアピールするので、慣れてしまえば大きな武器となるだろう。

また、私がよく使うメソッドにはボトムへのデッドスローがある。これはヒラメの鼻っ先を通すようなリトリブを心掛けるとよい。横に流れの発生している場所、横ヨブやスリットではドリフトさせることもできるので、横に泳いでくる物にしか反応しない固体にも口を使わせることができるのだ。

【グリード】

風に左右されない飛距離は、サーフゲームにおいて大きな武器となる。早いフォールスピードは、より深いポイントをしつかりと攻められると共に、テンポ良く探れるのもジグならではの。

小さなサイズ感にはベイトサイズが小さいときに非常に有利なので、深いエリアのボトムを、小気味良く叩くようなアクションやワンピッチなどの多種多様なアクションでアプローチしていこう。このとき、ティップを使ってアクションを入れ、ジグを横向きに漂わせてやることを意識するとよい。また、スイミングも得意とするので、タダ巻きやトゥイッチを織り交ぜるのも有効だ。



ポイントの選定方法は？

基本的に房総のサーフは遠浅で明確な離岸流も少なく、見た目は攻めどころが少なく面白味に欠ける地形だ。しかし、その小さな変化にもキッチリと魚は着くので、ある意味奥深く、そこに面白味を感じるようになるとシンキングペンシルの出番が増えてくるようになる。



ヒラメはデイゲームはもちろん、ナイトゲームでも狙えるのも魅力。時合いが来れば連発することもあるからやめられない！

ヒラメを狙ううえで、重要なことは地形の変化＝流れの変化を狙うのが近道であると言える。地形の変化とは目に見える河口、波の立ち方から判断出来るブレイクや払い出し、岩礁などのストラクチャーなどと、目に見ることはできないヨブや海底の根などがある。

釣りに出掛ける前の事前情報はネットなどで調べられるが、私は他人の情報は極力入れない。本来は重要な要素なのだが、これほどあてにならないものも無いからだ。何より面白味に欠ける。私は、最低限手に入れられる情報として、天候と海の状況、タイドグラフの確認。磯周りのタイドプールや港にイワシが居るかチェック。極力高速道路は使わず、海沿いを走り、鳥やイワシの漁をしている漁業船、ナナメ(ヒラメ)網などの目に見える情報を大事にし、そこからの予測からエントリーする。

現場では見晴らしの良い場所から波の立ち方、離岸流、掘れているエリアをチェックし頭に叩き込みプランを立てながらエントリーするとよい。

【岩礁やカジメ帯にもヒラメは居る】

サーフに隣接する磯場であったり、根周り。最近では磯からのヒラメの釣果記事を目にすることも多くなってきたが、ベイトが寄ると磯からも釣れるようになる。

特に朝マズメでは、ヤル気全開でカジメの上にステイし、表層を通るイワシを待ち構えている。もちろん、岩の間のスリットなど、ボトムにステイする個体もいるが、そんな個体もシャローに入ってくるだけあって上を強く意識している。磯の上から見ていると捕食シーンも結構見えるのだが、ボトムではなく、磯に生えるカジメの上に居るのだ。

表層までの距離が近く、フワッと急浮上してのバイト。そして、磯に着くヒラメのほぼ全てが座布団級であることも魅力的である。磯から専門にヒラメを狙うアングラーも増えて来そうだ。

サーフ内にもこんな場所は多々あるのだが、磯とは水面への高さが違い、サーフは海面とほぼフラットな高さとなる。

こうなると通せるルアーは限られてしまう。そんな状況に減法強いのがレビンヘビーだ。着水からすぐにリトリープを開始し、表層をユタユタと漂わせてくる。岩礁を抜けたらキワに着くヒラメも多いのでフォールでアピールし、砂地はボトム付近をスローに通してあげればよい。

リトリープ速度の変化だけで表層からボトムまで探れてしまうが、アシスト的にロッド角度を変えてやればよいだろう。座布団ヒラメの一級ポイントを攻略するにはレビンヘビーのようなヘビーシンキングペンシルを使いこなすことがカギとなる。

他のルアーでは根掛かりが多発しがちな場所なのだが、飛距離が出て、浮きやすく根を回避しつつ、それでいてフィンキールの作用で浮ききらない粘りが海面への飛び出しを抑え、見切らせない。これがレビンヘビーの強みだ！

カラー選択について

【朝マズメ】

サーフにおいて私が好んで使うカラーは、ゴールド、ピンク（赤）、パール（白）、ブラック。おおよそナチュラルなベイトカラーとは掛け離れた色だが、やはり実績が高いのは上記のカラーだ。ナチュラルなカラーであってもベリーに色のあるブルピン等をセレクトするとよい。ヒラメは目が悪いなど言われている。その辺りはよくは解らないが、色による好みが強いと感じている。

サーフではその他のターゲットも多数存在し、特に朝マズメは青物やシーバスも視野に入れたいところ。ナチュラル系を投げていた頃と違い、今では圧倒的にヒラメの捕獲率が上がり、外道が減った。

とはいえ外道と言っても魅力的なターゲットだけにしっかりと釣りたい。対象魚によってカラーを変えてやるのが重要だが、短い朝マズメに効率よく探りたい！釣れる魚は全部釣りたい！そんな理由から、私の朝一の先発はゴールドレインボーが多い。白い砂、マズメ時の光、サーフにおいてゴールドは外せないカラーで、全ての対象魚に有効である。万能なのはブルピンやナチュラルカラーなのだが、朝イチのヤル気のある時間帯にこそ、リアクション的要素のあるカラーをチョイスしている。



【日中】

ヒラメは他の対象魚よりも日中に釣りやすい。ヒラメを強く意識したカラーに、レビンヘビーやグリードではピンクゴールドがあるのだが、ド派手なカラーリングに抵抗のある方もいるかもしれない。日中にはナチュラルカラーを持ってくるのがセオリーなのだが、ヒラメには真逆のピンクゴールドやブラックが私の戦略だ。

過去にサーフで

【グリードのフックチューン】

グリードを使ったショアジギングでは、ジギングのようなアクションを付けるのが苦手な方もいるかと思う。しかし、ベイトが小さいときや深場であったり、ポイントが遠いときはやはりジグが強い。

ジグは使ってみたいが、風が強いときはとくに何をしているのか、ルアーがどう動いているのか解らない。または激しいアクションをさせるのが体力的にキツイ……。そんな人は、テールにトレブルフックを付けて泳がせて使ってみるとよい。

私はさらに艶めかしく泳ぐように、フェザーフックを付けている。これならアクションは自由自在。タダ巻きでも十分にアピールする。ボトム付近をスローに巻くもよし、速めに数回転巻いたらフォールさせるを繰り返すもよし。バラシに繋がるからトレブルは付けない方がよいという意見もあるが、そうそうバレるものでもない。掛けてからのやり取りは経験にもよるだろう。





キャッチした70cm 4kg以上のヒラメは、ほぼ100%ピンクかゴールドの入ったカラーであった。大型のいわゆる座布団ヒラメの過去の釣果を写真を見ながらその時の状況を思い出してみると、ベイトが打ち上がったり波間に確認できたりと、当たり前のようなが状況はよかった。

ヒラメのポイルを見た事があるだろうか？ 勿論、ベイトが多くいるからその行動だが、得てしてこんなときは釣れないことが多々ある。ワンドに溢れんばかりのイワシ。飛び上がるヒラメ

を前に去り行く先行者……。『釣れません。口使わないですよ！』ベイトに気付いたアングラーが入れ替わりで挑み、破れ帰って行く。

このときはまだテスト段階のレビンヘビーだったのでピンクイワシしかなかったが、多くのイワシの中では異質のピンク。やはりこれが効いた。一人勝ちできたのは使い方にも特徴があるので『メソッド』の方で紹介するが、カラーを含めたマッチザベイトは逆効果と言っても過言では無い。

そしてブラックは、房総の『タタキ釣り』というドジョウを使った釣りから得た発想だ。初めて平砂浦に行ったのは20年以上前。父親に連れられてヒラメを狙ったのが最初だ。ドジョウの頭に鉢巻状に赤い糸で縛り付けた仕掛けを作り、仕掛けごと冷凍保存していた記憶がある。

そのときは圧倒的大差で親父に釣り負けた。悔しくてワームを使った。フグにかじられ消耗は激しく、何が違うか考えた。黒いドジョウの腹はパールの様にもゴールドの様にも見える。赤い糸にも秘密があったのだろうか？

私が今、ヒラメを狙うのに大事にしているカラーの全ては、そのときのタタキ釣りのドジョウに繋がっていた。先人の知恵は凄いなと関心させられることばかりだ。



【ナイトゲーム】

目が悪いと言われるわりには、夜でも釣れるヒラメ。ナイトゲームではパールを使うことが多いが、ナチュラル系の釣果も意外に高い。全く不思議な生き物だ。



ヒラメ セレクション カラー

レビンヘビー、グリード 30g、そして発売になったばかりのハイスタンダードにヒラメセレクションカラーが新登場！ ヒラメに実績のあるルアー&実績の高いカラーの組み合わせで狙ってみて欲しい！

**新色
新登場!**



078：ゴールドチャート

061：赤金グローベリー（縦木口）

079：ホワイトベイト



080：ピンクレッドキャンディ

081：グリーンキャンディ

057：ピンクサンドゴールドイワシ
（スマッシュ）

激戦区で釣るために

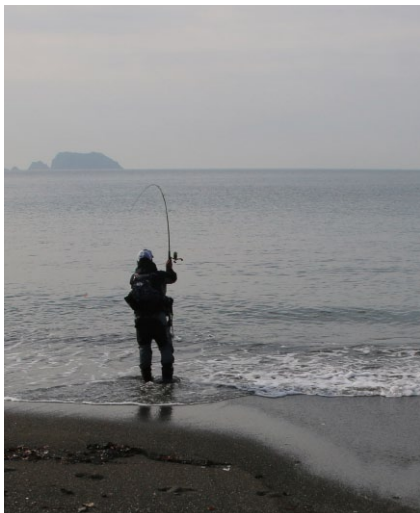
人気エリアでは数メートル間隔でアングラーが立ち並ぶのだが、こんなときは誰よりも遠くに飛ばして優位に立とうとしている方を多く見かける。

もちろん、飛距離は大きなアドバンテージを生むのだが、100m近い飛距離が出るルアーの殆んどは浮きやすい特性があり、しっかりと意識していないとかなり上のレンジを引いていることが多い。

飛ばし過ぎて残り20mを回収気味にしていたり美味しいゾーンをほぼ逃している。これでは疲労するだけで、沖に居た魚を手前に連れてきてハイエナの餌食。そう、ヒラメは思っているよりも長い距離追って来る。その間に、食わせの間であったり、フォールを入れてやらないとなかなか釣るには至らないのだ。

逆にワーム専門のアングラーも多い。飛距離は出ないが、届く範囲のターゲットにはキッチリアピールする。しかし、探れるのは手前の近距離限定……。アングラーが多くその場所から動けない状況では、しっかりとその場でできる釣りをしながらも、隣のアングラーの使用しているルアーもしっかりチェックしておくとうい。

ワームのみ使っているアングラーの場所が空けば遠くから探り直したり、遠投メインのアングラーであれば近場をネチネチ探ってみる。



サーフでは遠投しがちになるが、手前も意識してキャストを心がけることがヒラメ GET への近道だ！

取りこぼしが無いように、しっかりとやれることは全て試みるのが、釣果アップへの近道ではないだろうか。

ファイトスタイルについて

サーフでは、沖から自分に向かって波が寄せてくるので、アタリがあったら十分に巻き取りアワセを入れてスローなリトリーブやフォールで出るスラッグをとる必要がある。

このときに焦る必要は全くなく、今までのテンポで行うことで、しっかりとした一呼吸置いたようなフッキングに繋がるので、落ち着いてアワセよう。

すると、いったんヒラメはボトムに張り付く。アワセを入れると40～50cm台は浮いてくるのだが、70cm4kgくらいになると、アワセだけでは浮いてこなかったりする。この瞬間がヒラメを釣るうえでいちばんたまらない。

悪いクセで、アワセを入れてロッドが起きてからしばらく様子を伺ってしまうほどだ。アワセを入れたら私は数歩バックし、高い位置をとりながら魚をポンピングで浮かせてくる。その場で浮かせたら、水面をキープさせながらロッドに一定のテンションを保ちつつ、リーリングで寄せて来る。このとき、意味の無いポンピングこそが弛みを作りバレに繋がるので、張りの強いロッドを使っている人ほど気を付けなければならない。

水面に浮いた魚を確認しつ



つ、同一テンションを保ったままゆっくり前進し、波打ち際まで出て左右どちらかにロッドを寝かす。このとき初めて波打ち際に近づくのにも理由がある。高い位置でロッドを立てることにより、波にラインを持っていかれないようにすることと、魚の確認をより早くすること。波に足をとられず、不意の大物に横に走られても素早く正面に移動できることなど、アングラーが完全に優位に立って主導権を渡さないためだ。



ここからがサーフのヒラメ釣りで最も注意を払わなければならない波打ち際の攻防だ。引き波に持っていかれると物凄い抵抗が掛かるので、魚を浮かせつつ押し波にタイミングを合わせて魚体をズリ上げる。決して波に背を向けずに、安全な位置までズリ上げるまでは気を抜かないこと！ 最初から最後まで同一のテンションを保つように心掛けていれば、バれることはそうそうないのだ。



LONGIN. が贈るフリーペーパー

ロンジンマガジン Vol.7

弊社製品取扱店にて好評配布中!



新製品であるハイスタンダードのみを特集したロンジンマガジン最新第7号が配布中!

テスター陣によるハイスタンダードのインプレや、製作者伊藤が語るハイスタンダー製作秘話など、ここでしか読めない内容が盛りだくさん! ロンジンが魂を込めて作ったミノー、ハイスタンダードについて全てわかる一冊となっております!

ロンジンマガジンは無料配布! 弊社ルアー取扱店全店で配布しているので、店頭になかった場合は店員さんに聞いてみて下さい!

(弊社在庫があれば、お店へ送らせていただきます)。

ロンジンマガジンのご意見・ご感想もお待ちしております (HP アンケートよりお送り下さい)。

ロンジンマガジン Vol.7

配布価格: ¥0 (フリーペーパー)

版型: A5 版 24 ページオールカラー

発行: 株式会社 LONGIN.

LONGIN. 製品取扱店にて無料配布中
(数に限りがありますので、品切れによる配布終了の際はご容赦下さい)



LONGIN

WE STRIVE TO Tokyo JAPAN since 2011

WEB MAGAZINE Vol.24

発行日：2016年11月11日

株式会社 LONGIN.